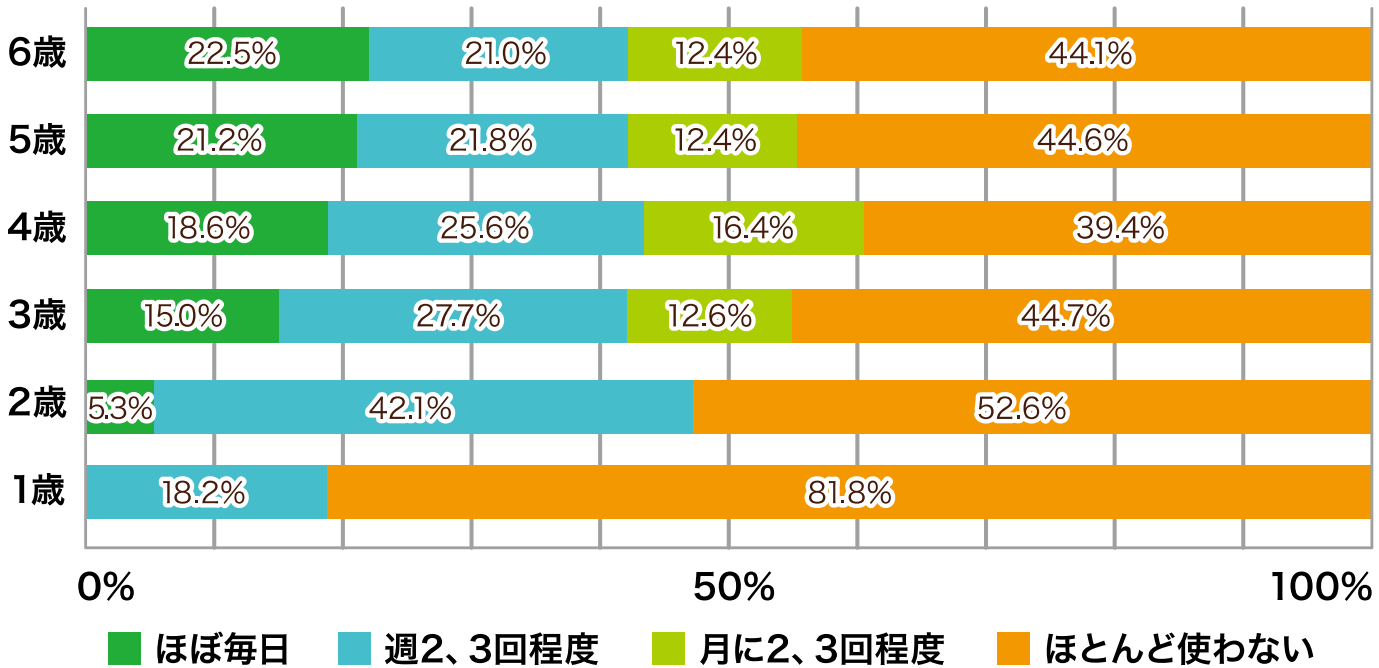


親と子どもの スマートフォン・タブレット 利用調査結果

2014年12月11日

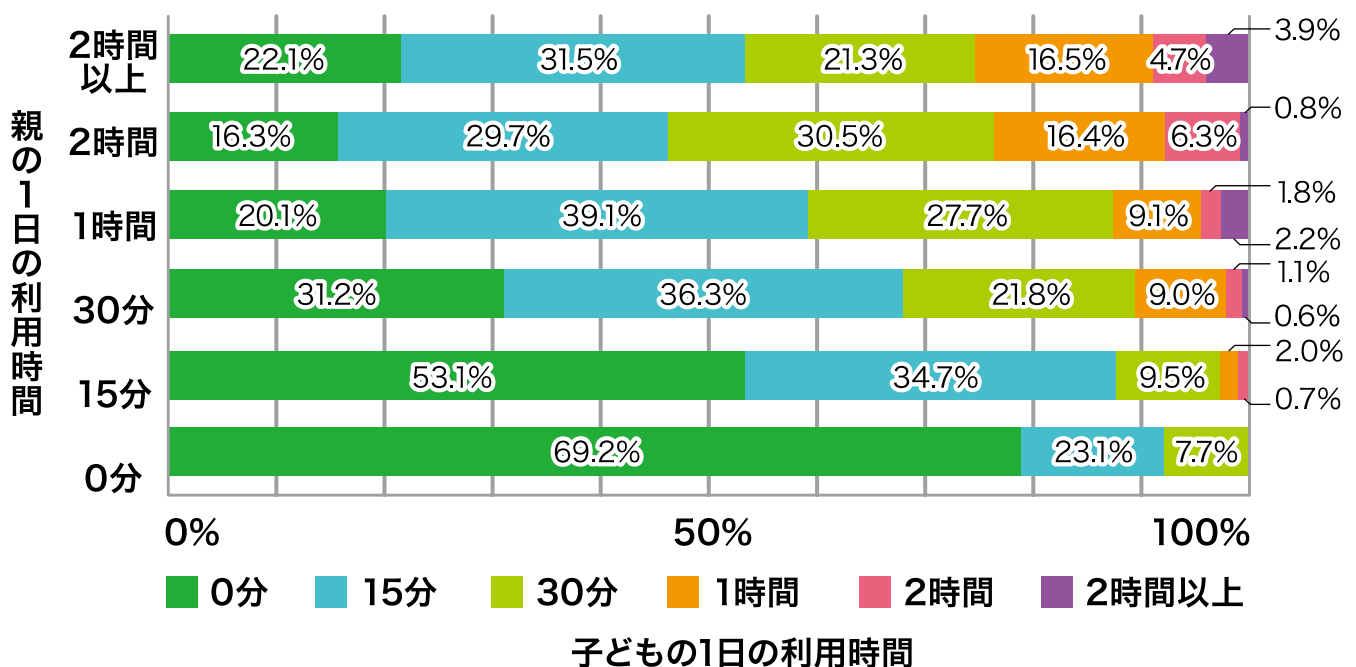
- 調査対象 幼稚園・保育園に通う1～6歳児の保護者
- 調査方法 幼稚園・保育園経由でアンケート用紙を配布
- 調査機関 2014年9月10日～2014年9月30日
- 有効回答数 1,158件
- 調査実施機関 NPO法人e-Lunch（イーランチ）

1 子どもの年齢別利用頻度



1歳児でもすでに18.2%の子どもが週2、3回利用をしている。2歳児以降は年齢が上がるにつれて毎日利用する割合も増加。2歳児以降の約半数にはスマホ利用が習慣化している。

2 親の利用時間と子どもの利用時間の関係

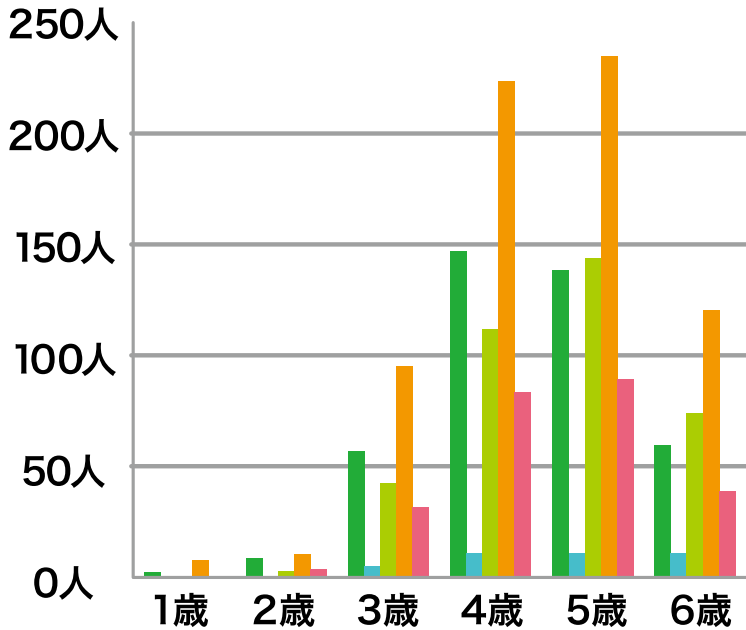


親の利用時間が長くなるにつれて、1日1時間以上スマホを利用している子どもも増えている。親のスマホ利用習慣は、子どもの利用習慣に直接的に影響していることがわかる。

3

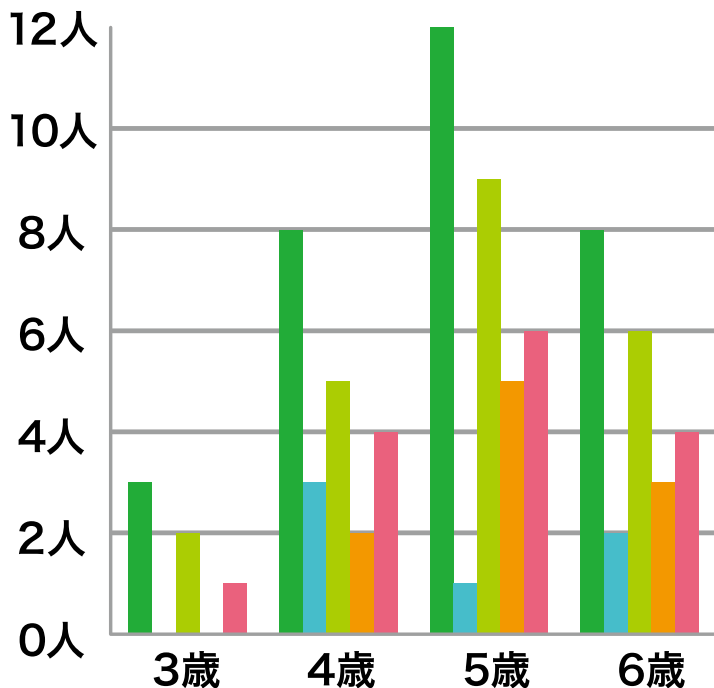
子どもの年齢別利用目的

全体



幼児の利用目的としては、「写真や動画を撮る・見ること」が最も多い。さらに、「動画を見ること」、「ゲームで遊ぶこと」が続く。

1日2時間以上利用

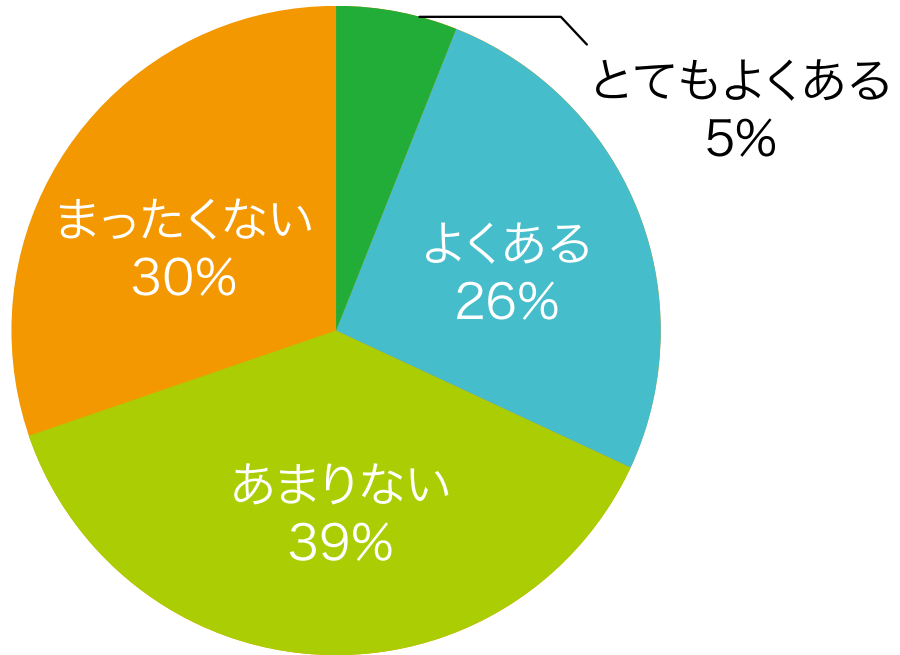


利用時間が2時間以上の子どもたちに絞ってみていくと、「動画を見ること」、「ゲームで遊ぶこと」が増えていることがわかる。

動画やゲームに親しむことは、長時間利用につながりやすいことがわかる。

4

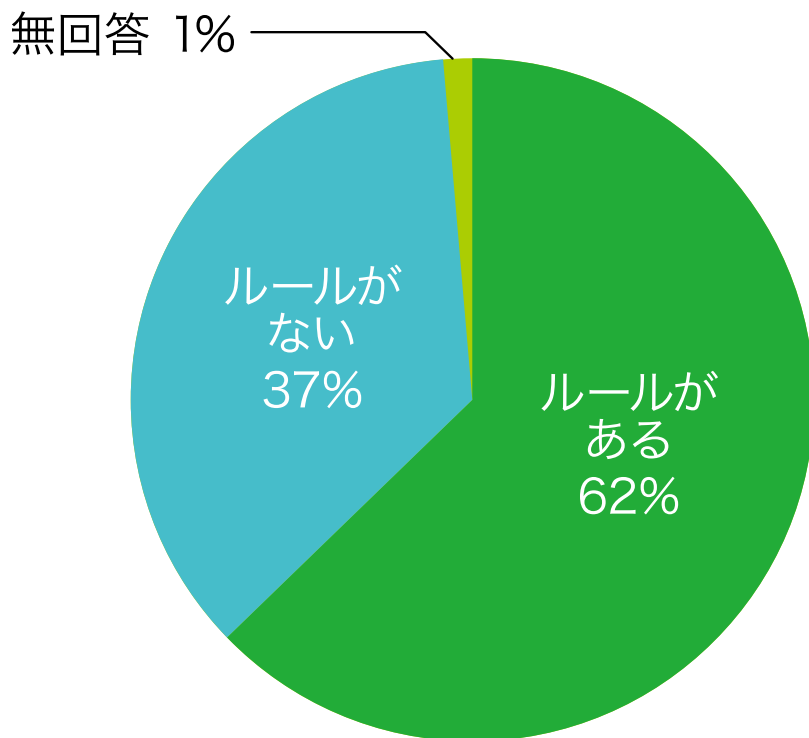
「子どもを静かにさせるため」の使用



子どもを静かにさせるために7割がスマホ使用を経験。公共の場での利用が一般化している。

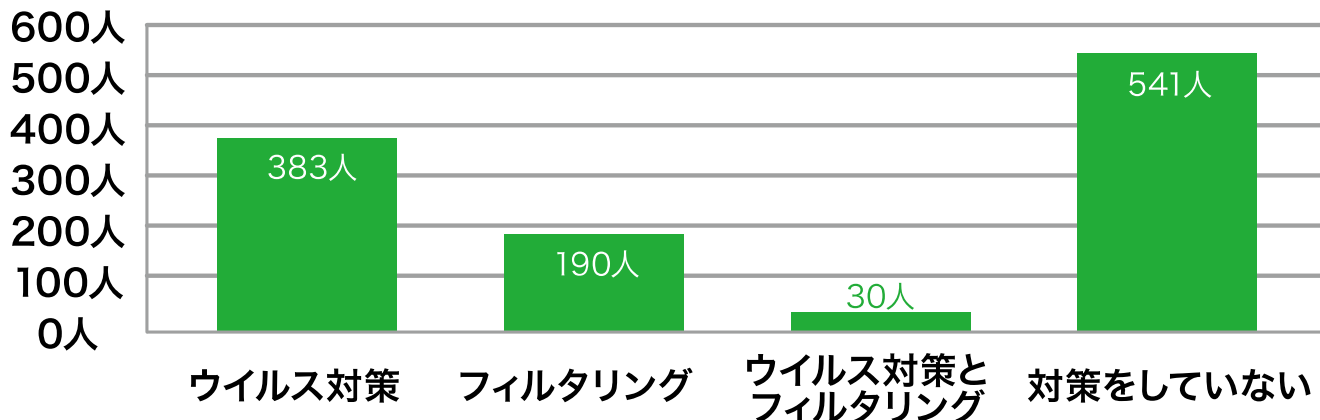
5

家庭での利用ルールの有無



すでに、6割の家庭ではスマホ利用について何らかのルールをつくっている。

6 セキュリティ対策状況



調査対象の約半数がウイルス対策もフィルタリングもしていないことがわかった。セキュリティに対する対策が何もされていない状態のスマートフォンやタブレットを保護者だけでなく子どもたちも利用してしまっている実態が浮き彫りになった。

まとめ

本調査の結果、親のスマホ利用習慣は、子どもに直接的に影響していることがわかった。また、62%の家庭ではスマホを利用するときのルールを定めている。平成26年2月に内閣府が発表した『平成25年度 青少年のインターネット利用環境実態調査』（*1）でも、満10歳から満17歳までの青少年の家庭でもルールがあるとの回答が67%という結果が出ていることから、子どもの年齢に関わらず、親は子どもにスマホ・タブレットを利用させるときに何らかのルールを設ける必要性を認識していることがわかる。

一方で、約50%の保護者は、子どもたちに手渡すスマホにウイルス対策やフィルタリングなどを施していないことも明らかになった。国民生活センターの情報（*2）によると、保護者が気づかぬうちに子どもが課金サービスやクレジット決済を利用する事例も増えていることから、イーランチでは保護者を対象に家庭でのルールづくりやセキュリティ対策の啓発活動にさらに力を入れて取り組んでいく。

*1：内閣府『平成25年度 青少年のインターネット利用環境実態調査』（10頁参照）

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h25/net-jittai/pdf/kekka.pdf>

*2：国民生活センター「子どものオンラインゲームのトラブルにご注意ください！」

http://www.kokusen.go.jp/soudan_now/data/kodomo_game.html



スマホのある 子育てを考えよう

この調査は、カスペルスキーの協賛事業「スマホのある子育てを考えよう」の一環で行われました。同事業では全国の幼稚園・保育園に通う子どもの保護者を対象に、インターネットの安全利用を啓発することを目的に、無料セミナーの開催や教材DVDの無償配布を行っております。詳しくは公式サイト (<http://sumaho-kosodate.com/>) をご覧ください。

● お問い合わせ先 ●

NPO法人e-Lunch（イーランチ） <http://www.npoelunch.jp/>

〒425-0092 静岡県焼津市越後島385 054-626-2100